



若草園を支える会 会報 後援会だより

2021年(令和3年) 7月27日発行 第47号

事務局: 社会福祉法人 栄光会 若草園 内

〒787-0155 高知県四万十市下田2211

Tel (0880)33-0247/Fax 33-0518

ホームページ⇒ <http://wakakusaen.holy.jp/>

会長: 林 博 編集: 瀬戸雅弘

取引口座 ゆうちょ銀行01660-6-43229 若草園を支える会
幡多信用金庫 下田支店(普)83497 若草園を支える会 会長 林 博

機関紙『わかくさ』第57号を同封しております。

◆本格的な夏の到来



四国地方は5月15日に梅雨入りしました。その後、日本列島を北上して各地方で梅雨入りして四国よりも先に梅雨明けもしました。7月19日に観測史上最も長い65日で、四国の梅雨明けとなりました。いよいよ本格的に夏がやってきます。

コロナウィルスが依然と猛威をふるっています。コロナ禍での2回目の夏になり、若草園では恒例のガーデンパーティーも、下田子ども夏祭りも、2年連続でできませんでした。そのような中、学校でも感染対策に取り組んで下さり、1学期の学びを終えて子ども達は夏休みを迎えました。関係者のご尽力に感謝します。

◆コロナ禍での慈善活動

若草園の機関誌では昨年度の決算報告をしておりますが、このような状況で「若草園の子ども達も大変な思いをしているだろう」と、個人や団体から心温まる支援が寄せられ、例年よりも多くの善意が届きました。



また、若草園を支える会でも昨年度は新しい制度ができて「賛助会員」を募集することになり、その賛同者も与えられました。その相乗効果によって、会員数も増加しました。詳しい事業・決算内容は総会にて承認を受けて、次回の会報でお伝えします。

(ドローン撮影)



◆8月28日(土)11時から総会

若草園を支える会の新年度が7月からはじまりました。2021年度の会員総会を下記のとおり開催致します。コロナ禍にありますので、積極的な参加要請はいたしません。裏面に、近年の社会的養育の方向性と若草園を支える会の意義を掲載しております。ご意見・ご質問・ご感想などがございましたら事務局までお寄せ下さい。なお、会費の募集は総会後に開始いたします。

▽若草園を支える会 会員定期総会

日時 2021年(令和3年)8月28日(土曜日)
11:00~

場所 若草園 地域交流多目的ホール
(連絡先は右上をご覧ください)

議題 決算・事業報告、予算・事業計画、役員選任



✉事務局直通メール
wakakusaenjimu
@
dream.ocn.ne.jp

◆子ども・子育て支援法

⇒行政の対応

法人としての若草園を統轄している四万十市では2018(H30).4.1に福祉事務所から子育て支援課が発足して、児童福祉対策を充実させました。2020(R2)年からは第2期子ども・子育て支援事業計画を策定して「大きく咲かそう子どもの笑顔 ～あったか子育てのまち しまんと～」のキャッチフレーズのもと、新しい子ども・子育て支援制度に対応しています。

また福祉サービスの内容（処遇）について統轄している高知県では2021(R3).4.1に従来の地域福祉部児童家庭課から子ども・福祉政策部 子ども・子育て支援課に組織変更されました。これら市と県の所轄課の名称にある子育て支援の言葉は、2012(H24)年に交付され2015(H27)年に施行された子ども・子育て支援法によるものです。

⇒子育て支援の意義

国として子育て支援に力を入れる理由に、少子化、人口減少があります。日本の総人口は2008年からは減少に転じ、このままの状態では出生率が伸びなければ2048年には1億人を切り、2060年には8,674万人までに人口が減少してしまう試算がなされています（内閣府データ）。そのためネウボラという考え方が導入され、行政を挙げて子ども・子育て支援に取り組むようになりました。

ネウボラ…、また新しい横文字に閉口してしまいましたが、これは北欧など福祉大国で、特にフィンランドにおいて妊娠期から出産～子どもの就学前までの間、母子とその家族を支援する目的で地方自治体が設置・運営する拠点の名前で、これに倣って子育て家庭を切れ目なく支援するという内容です。

日本が少子化に傾いた要因は色々考えられますが、その1つに核家族化があるでしょう。その是非については別の場に譲るとして、大家族の時代は子育てをするにも祖父母や身内の支援を受けやすかったでしょう。現代社会に欠如している子育て夫婦への支援を、社会保障制度として取り組もうとする内容です。

⇒若草園の働き

若草園では、子育て家庭を対象に育児相談業務や、直接的な子育て支援を実施しています。ショートステイ事業も実施していて、かつての大家族の時代のように「子どもはおじいちゃん、おばあちゃんに、しばらく面倒を見てもらって……」という預かり保育にも取り組んでいます。

⇒若草園を支える会の働き

レジ袋有料化はすっかり社会に定着しました。しかし、その目的が海洋汚染の防止であったり、環境汚染の防止であることに留意しなければ、買ったレジ袋をいぜんとして投棄してしまい、本来の目的を果たすことは出来ません。

同じように子育て支援の社会制度が整ったとしても、いぜんとして社会の目が子どもに対して厳しいままであったら、子育て家族が安心して育児が出来ず、さらに少子化を招くこととなります。また、「ここは田舎だからここには児童虐待はない、子育てもしやすい」と思い込んでしまえば、「若草園もよそから来てできた施設だ、地元の子どもは居ない」と考えてしまい、この地域と混じり合えなくなるでしょう。子育て支援はこの地域でも必要であって、若草園もこの地域にニーズがあるから存在しています。これからも、この広報周知活動を中心に若草園を支える会は活動したいと思います。

